

令和6年度第2回小松市地域公共交通活性化協議会議事録

- 日時： 令和7年1月15日（水）11時00分～12時20分
○場所： 小松市役所7階 701・702会議室
○出席者： 別紙

内 容

1. 開会挨拶

（副市長 越田会長）

- 2月には小松版の公共ライドシェアがスタートし、3月には新幹線開業、それに合わせて小松駅空港間を結ぶ自動運転バスの路線運行が開始するなど昨年は本市の公共交通が大きく変化した年であった。
- 自動運転バスについては、緑ナンバーをつけて運賃を徴収して365日走行する取り組みは全国初であり、全国から多くの視察があった。また、おかげさまで、一便の運休もなく、多くの方々にご利用いただいている。
- また、今年度は新たな交通体系の検討を進めるために、地域公共交通研究の第一人者でもある名古屋大学の加藤教授をお迎えし、公共交通の再編に関する理解促進、機運醸成のためのセミナーやワークショップを開催している。来年度には地域交通プランの見直しを進めていく予定。
- 鉄道や路線バス、タクシーなど既存の交通はもちろんだが、ライドシェアやデマンド交通、共助による地域乗合バスの運行など、様々な交通モードを組み合わせることで持続可能な公共交通の構築を考えているので、当協議会でお諮りさせていただきながら進めさせていただきたい。

（事務局 本谷部長）

- 24名中20名の委員が出席しており、本日の会議は成立する。
（1名遅れて出席と聞いている）
- 規約に基づき、会長が議長となり進行を行う。

2. 協議事項

- (1)小松市地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について
資料に基づき、事務局（西本参事）より説明

【質疑応答】

意見質問なし

【承認】

他に意見質問はなく、承認された。

(2) 市内循環線南コースのルート及びバス停の見直しについて

資料に基づき、事務局（西本参事）より説明

【質疑応答】

意見質問なし

【承認】

他に意見質問はなく、承認された。

3. 報告事項

(1) こまつ地域交通プランの見直しについて

資料に基づき、事務局（西本参事）より説明

【質疑応答】

(小松市町内会連合会会計 北川委員)

- さきほどの協議事項にもあったが変更していくこと自体は構わないが、変更した結果を検証する機会を設けた方がいいのではないかと。また、特に高齢者に対してだが、試乗会などをやっていかないと、バスの利用は減っていき、そのうちバスはいらないよとなってしまふ。それは本当に困ったことだと思うので、できれば我々住民としては広報活動を含めながら、市民の方に本当は便利だということをお知らせしてもらい、乗ってもらいたいということが1番だと思うので、そういった施策をこの会でも考えていかなければいけないのではないかと。

→ (事務局 本谷部長)

- バスを利用していただくためには居住している所により近いバス停であったりルートの見直しが必要になってくるが、小松市の特徴として、これまで自動車を使用していた人が、免許返納後にバス利用につながらない状況が見受けられる。バス停・ルートの見直しはもとより、行きたい時に行きたいところへいつでも行けるような仕組みを検討していくことが必要だと考えている。例えば小型のバスや乗合タクシーのようなものを展開していくことを見据えながら交通プランの見直しに着手していくことになる。また、月津・日末の方で実施している乗合タクシーの地域版、こういったものを交通空白地での展開ということも考えられる。
交通プランの見直しにあたっては、小松をいくつかのエリアに分けて、地域の中でも話をしていく予定である。そういった中で、広くご理解いただける形でプランの見直しを図っていきたいと考えているので、試乗などのご意見もいただいたので、参考にさせていただく。

(小松地区タクシー協会会長代理 市村委員)

○ 月津・日末の取組みとはどういったものか

→ (事務局 本谷部長)

- 地域の方が乗合ワゴンを走らせ、スーパーや駅などまでの移動手段としての事業を行っている。地域の方の運転で地域の方が運営をしているものである。

(小松地区タクシー協会会長代理 市村委員)

○ 免許返納のメリットはあるか

→ (事務局 西本参事)

- 小松市では、交通安全協会の方で、例えばらく賃パスポートをお渡しするなどの返納に対する特典を用意している。また、2年目、3年目についてはタクシーの補助チケットなどをお渡ししている。

(小松地区タクシー協会会長代理 市村委員)

○ 商品という形で渡しているが、貰ってメリットがある内は使うと思うが、それが無くなった時は、出歩きづらくなる。その状態で、バスをこんな風にするということは出歩くなということを行っていると思うが、その部分への補償や手当は考えているか。

→ (事務局 本谷部長)

- 元々、免許返納者へは1年目しか支援がなかったが、2年目、3年目の支援を拡大してきた経緯がある。それ以降については、現状予定はないが、交通プランの見直しと合わせてやっていくことになる。

(公立小松大学国際文化交流学部教授 中子委員)

○ らく賃パスポートについて行政負担が増加しているとのことだが、イメージとして、行政としては、らく賃パスポートを渡し、免許を返納してもらおう。そうするとらく賃パスポートがないと移動ができない、利用が増える、行政負担が増える。やればやるほど行政負担が増えるというジレンマに陥っているのではないか。そうであれば、今の時点で、らく賃パスポートをどこかで線引きをし、仕組みを変える、上限を下げる、対象者を見直すなど考える必要があるのではないか。

→ (事務局 本谷部長)

- おっしゃるとおり、利用が増えるほど財政負担も大きくなる。しかし、必要な手段であることには間違いはない。利用者自体もそれほど増えているかというと、高校生については少子化もあり減ってきており、高齢者は横ばいという状況である。せつかくある制度ですから、利活用していただけるよう進めていかなければならないが、バス路線ということもあり、実際に乗る人が限られている現状があるため、交通プランの見直しの中で、らく賃パスポ

ートを全高齢者が活用できるようになるためにはどうすればよいかなど検討し、こちらから方針をお出しして、この協議会でお諮りしたいと考えている。

→ (副市長 越田会長)

- らく賃パスポートは 65 歳以上の方と高校生について定額で路線バスを乗り放題にして、北川委員がおっしゃるように路線バスの利用促進を図ろうという目的でスタートしている。高齢者は月額 2,000 円、高校生は月額 3,000 円と定額で乗り放題ということで非常に利用もいただいている。ただ、路線バスが運行しているルートに限られているため、その路線にある人に利便供与されており、全市民に対してという観点では疑問があるところ。私見になるが、路線バスを全てのところに通すには資源に限りがあり困難であるため、様々な交通モードを組み合わせ、路線バスは幹線を頻繁に走らせて、幹線につなぐための交通をいかに構築していくというイメージを持っている。そのため、路線バスが幹線を頻繁に走るとなると、らく賃パスポートを利用できる対象も狭くなってくる可能性もあることから、このあたりも含めて、見直しをしていく必要があると考えている。また、目的は市民の移動の利便性を高めるということになる。いずれにしても、本協議会に諮りながら進めていきたいと考えている。

(2) 自動運転バスの取組状況について

資料に基づき、事務局 (石黒主幹) より説明

(3) 小松市ライドシェアの取組状況について

資料に基づき、事務局 (西本参事) より説明

【質疑応答】

(小松市校下女性協議会会長 久保委員)

- 一元管理システムの構築、運用開始の用途は

→ (事務局 西本参事)

- システム自体は今年度中、3月の完成を予定している。ただ、システム完成後、すぐに運用できるわけではなく、今後、タクシー事業者など関係者とお話をさせていただき、どういう風にしていくか、例えば呼ぶ順番など一緒に話し合いをしながら作っていきたいと考えているため、準備が整い次第、運用開始となり、来年度中にはと考えている。

(小松地区タクシー協会会長代理 市村委員)

- まず、タクシー協会からだが、タクシー会社と一切話していない中で、前回もそういう話が出たが、話しをしていないのに今年度中にできるというのは、発言としてお粗末ではないか。女性協議会の方からもあったが、来年度中にできるというのはまだ話してはいけないのではないか。まだ、話し合いしていないのではないか。

→（事務局 西本参事）

- タクシーとの共同運営の仕組みを来年度中にという件について、こちらとしては今年度中の構築、来年度中に実施したいと考えているため、今後、タクシー協会と話をしていきたいという趣旨で発言させていただいた。

（小松地区タクシー協会会長代理 市村委員）

- 小松市にあるタクシー会社7社から平等に選んで配車することできるのか。あと、ライドシェアについて、どの時間帯でどのくらいの利用があったのか。

→（事務局 西本参事）

- 時間帯で利用が多いのは17時から18時の時間帯と22時以降の時間で利用が多くなっている。おそらく、飲みに行く時に使うことが多かったので、行く時と帰るときの利用だと思われる。そのため、19時から21時などは比較的利用が少なかったという状況。

（小松地区タクシー協会会長代理 市村委員）

- ライドシェアは大人が飲み、遊びに行くための事業なのか。

→（事務局 西本参事）

- 飲みに行く時の利用もあるが、もちろんそれ以外の利用もある。

（北陸鉄道労働組合北鉄加賀バス小松職場委員 植村委員）

- 今ほど、タクシー協会の市村副会長からもあったが、複数の公共サービスとの一元管理っていうのは本当にできるのか。市村副会長がおっしゃったように、複数のタクシー会社が存在している。それで、その配車を小松地区でやっていないところっていうのも複数ある。例えば、小松市内に営業所がありながら金沢で配車をしている会社が2社、加賀市で配車しておる会社も2社ある。そんな中で、本当にこの一元管理っていうものが果たしてできるのかどうか。そして、タクシーでも配車のルールや、駅・空港構内の配車の取り方、並び方、そういったようなところに様々な各社ルールがある。そんな中で、一元管理っていうものをやりたいとは言っているものの、本当にやれるのかどうかっていう疑問が、働く側としても思うところである。私はバスの運転手であるが、実は元タクシーの運転手でもあるので、そちらの事情にもあらかた通じているっていう中での意見として捉えていただきたい。また、おそらく、このような話が出てくると、タクシー労働者の側からも、本当に

こんなことできるのか、どうなるんだという話がたくさん出るんじゃないのかなって風に思っているんで、その辺の心構えとか、対策をお考えいただきたい。

あと、自動運転に関して、我々北鉄バスで受託させていただいているところだが、ブレーキの改善が望まれる。ドライバーによる運転に比べれば、どうしてもカックンブレーキになってしまうことは仕方ない。また、運賃支払いの改善とはどういったものかお示しいただければと思う。

乗務する側としても技術の進歩には驚かされるが、事前のシステムの設定など簡略化をお願いしたいところ。設定に関してはディーゼルバスに比べると明らかに多く、運転のプロではあるがITに精通しているわけではなく、誰でもが乗務できる仕組みづくりをお願いしたい。実際、専属の運転手が1人、それを補助する形で私を含めて3名ほどがいるが、今後としては、乗務員誰でもが乗れるような仕組みを構築していただきたいと思っているので、機械の立ち上げ方、設定の仕方、その終わった後のしまい方、そこに色々と機械を触らなくてはいけないっていうのは、ちょっと難しいので、そういうところの簡略化っていうものをお願いしたいなっていうことを、乗る側としての意見としてこの場で挙げさせていただきたい。

→ (事務局 石黒主幹)

○ 運賃支払いについては、現場に答えがあると思っており、ドライバーの方に、乗客の反応や声を聞きたいと思っている。現状の支払い方法としては、基本的にICOCA、Suicaが使える、支払いの66パーセントがキャッシュレスとなっている。料金は、均一280円になっているので、乗る時にはタッチせずに、降りるときに、1回だけタッチして降りるという運用となっている。私が遠隔監視で見てる感じの感想では、降りる時にタッチっていうことになると、空港線は大きな荷物を持っていることもあり、荷物持ってタッチするところで、スムーズには流れないのかなと感じている。

なので、目的について、降りるまでに一定の時間がかかっていることに、もしかしたら改善点を求める人がいるのかもしれないなという、これは外から見ての感想なので、その辺りを踏まえて、ちょっと現場の声を聞いて改善につなげていきたいというのが最初の回答となっている。

2点目、システムの設定に関しては、本当にありがたいという思いでやっている。普通のバスに比べて非常に設定項目があり、どちらかというとソフトウェアを触るといふ部分が多いので、非常に苦労される部分が多いかなと感じている。

これを世の中に広めていくためには、誰でも使えるシステムにしないとイケないし、本来であれば、そういう細かい設定なしに行けると、いわゆるその安定性を含めた、ヒューマンインターフェースも含めて、しっかりとした工業製品

としてできるっていうことが必要となってくると思う。やはりその部分に関してはまだ 100 パーセントのものができてないというのを感じているので、レベル 4 に向けてこれから進めていく中で、レベル 4、将来的には運転手さんもいなくなる想定なので、その中で人が介在する部分をどんどん減らしていく、シンプルにしていくということを進めていきたいし、当然求めていきたいとし、企業側が側には求めていきたいと考えている。最後、関連して、ドライバーについて、現在、4 人程度で回していただいているということで、他のドライバーでも対応できるように、順次トレーニングの方、来年度以降も進めていきたいと考えている。これは北鉄加賀バス、運転手、非常にローテーション、色々大変お忙しいとのは存じているが、そのトレーニング関係についてまたご協力、来年度以降またお願いしたいと思っている。

→ (事務局 西本参事)

○一元管理システムについての導入目的は、1つのアプリシステムで予約・配車ができればいいなという利便性向上と、もう1つは、タクシーが不足してきているという状況の中で、なんとかタクシーを維持しながら、足りないところを別の交通でどうやって保管していくかということである。一元管理システムについては、構築した当初は、他にこのシステムを使っているところがない、このシステムが出来上がっていないという状況でもあるので、まずは小松市と富山県の南砺市でこのシステムを作って制度を構築して、それをさらに横展開して行く。その後、全国のいろんな自治体にこのシステムを広げていきたいと考えている。

また、南砺市では3月にタクシーとの共同運営を実施しようとしているので、その配車の仕組みだったりとか、タクシーをどのように配車をしていくかとか、そういったところは、他の自治体の事例も参考にしながら、今後、小松市のタクシー協会とお話する時に提案もできる。また、タクシー協会からも意見をいただきながら、どうしたら1番良い形でその配車できるかっていうことを一緒に決めていけたらと考えている。

(小松地区タクシー協会会長代理 市村委員)

○ 以前タクシー事業者が集まってお話をさせていただいてから、一切連絡がない。これまでの間にどのようなことを考えているのかを報告してもらいたい。

→ (事務局 西本参事)

○今はシステムを構築しているという状況であった。どういう風に具体的なサービスにそのシステムをどう活用していくかっていうのが、今ちょっとずつ見えてきている状況っていうところもある。

一元管理システムを通じて、予約が入った時にはまずはタクシーが配車できないかを確認し、それが難しい場合にライドシェアが配車されるシステムである。一元管理システムとタクシー配車アプリと連携ができるのであれば、そのアプリとの連携というのも考えることができる。アプリを使ってないタクシー事業者については、例えばタブレットを持っていただき、そのタブレットに配車の情報を流して受けていただくことも可能である。また、その費用面も相談しながら進めていきたい。

(北陸鉄道労働組合北鉄加賀バス小松職場委員 植村委員)

○ライドシェアに関しては、昨年のライドシェアの開始の時に1度この公共交通会議で議論している。そこで、我々労働者側の印象としても、やはりこういう大きな会議の場で知らされていないことが急に降りてくるっていう印象がやはり拭えない。この話にしたって、事前の打診があるとよい。急に言われたら、我々としても困る。聞かされていないことでも、タクシー事業者、バス業者にも関わってくることもあるので、もう少し密接にコミュニケーションを取れるような方法も取っていただきたい。特に、乗合ライドシェアの検討は、利用が少ない赤字路線の対応だと思うので、我々バス事業者にも関わってくる話である。バス乗務員としても、タクシーに関わるライドシェアのことが他人事には思えない。今後も、タクシー協会とも色々と意見交換しながら、このライドシェアのお話には労働者としても注視はさせていただきたいと思っているので、皆さん方にご理解をいただきたい。

→ (事務局 西本参事)

○貴重なご意見ありがとうございます。現状と一元管理構築後の図に関しましては、前回、6月の協議会でも同じもので説明をさせていただいている。その際に、乗合ライドシェアっていうのも導入検討するというのもお話をさせていただいているので、今回急にこれをいきなり出したっていうわけではない。ただ、その後、タクシー協会とお話はできてなかったというのは事実であるので、今後連携を密にしながら進めていきたい。

(小松地区タクシー協会会長代理 市村委員)

○1つの意見だけを聞くんじゃなくて、全員の意見を聞いてほしい。タクシー協会についても、すべての会社の意見を聞いてほしい。

(副市長 越田会長)

○時間もかなり経過しておりますので、またよくタクシー協会、そしてバス事業者と事務局の方でお話をさせていただきたい。

(事務局 本谷部長)

○我々も、連絡という面で少し抜けていた部分があったという風なことでご指摘もいただいたので、今日のご意見を貴重な意見として、今後、連絡を密に取りながらやっていきたい。

(日本海観光バス株式会社総務部長 西出委員)

○タクシーやライドシェアの利用について、タクシーが捕まらなくてライドシェアにどのくらい流れたか等の利用実績や利用者の年齢等の集計を取る方法はあるのか。

(事務局 西本参事)

○ユーザーのデータについては、年齢等のデータは取れてないというような状況。利用者の方には、普段タクシーを使わなくてこのライドシェアを使ってるっていう方もいれば、タクシーが本当に捕まらなくてこっちを使うっていう方もいると思うが、詳細の分析はまだできてない。今後聞き取りとかもしながら、もうちょっと分析できるようなデータを集めていきたい。

(副市長 越田会長)

○それでは、以上を持ちまして本日の協議会の方、終了させていただきます。皆様にはどうもありがとうございました。

(事務局 本谷部長)

○ありがとうございました。それでは、以上を持ちまして本日の会議を終了いたします。皆様、大変お忙しい中、長時間にわたりありがとうございました。